

# 喜久屋書店スタッフのオススメ本 紹介



## 今月は文芸担当者の オススメ本を紹介します

店名	タイトル	アピールポイント
小樽店		<p>BUTTER</p> <p>形のないイメージにふりまわされてがんばっているようで、実は苦しんでいるんじゃないの？そんな事を考えさせられました。深くてももしろい小説でした。</p>
小樽店		<p>秋山善吉工務店</p> <p>真赤な表紙にいかめしい爺ちゃんの顔、おもわず手にとってしまう装幀です。味わい深い人情ミステリー。</p>
帯広店		<p>BUTTER</p> <p>2009年首都連続不審死事件で殺人罪などに問われた木嶋佳苗被告をモデルにした小説。今、女を書かせたらNo.1の作家柚木麻子が容赦なくシビアに女のあらゆる面を露わにして”女”そのものに迫った会心作。予想のつかないストーリーだけでなくおいしい食べ物の話も盛り込まれていてバターのような濃厚な味わいの小説だ。</p>

<p>仙台店</p>		<p>紙のピアノ</p>	<p>新堂冬樹作品のなかでは、見たことのないような優しい作品に感じます。暗いじめの中から、ピアノを通して導いてくれた恩師への想いに感動できること間違いなしです。</p>
<p>高岡店</p>		<p>横浜駅SF</p>	<p>横浜駅が日本を支配する。設定から少々飛んでいるが、ただ飛んでいるのではなく、ものすごくディテールにこだわった作りになっている。SUICAが無いと入れない駅に青春18きっぷを片手に乗り込む。面白い。</p>
<p>太田店</p>		<p>かなわない</p>	<p>主に日記で構成されており、ハッピーエンドの物語で終わるわけではないが、生命が吹き込まれた文章と、状況を客観視している冷静さが絶妙。読後、ヒリヒリした感覚が残った。</p>
<p>宇都宮店</p>		<p>図書室のピーナッツ</p>	<p>どんな本を読んだらいいかわからない。そんな方におすすめしたいのがこの図書シリーズです。前作『図書室のキリギリス』に続き、高校の図書室で働いて2年目となる詩織のもとには生徒たちの疑問・珍問がもちこまれます。謎を解くのは生徒たち。詩織は司書としてその道を指し示すべく、先代司書の永田さんや市立図書館のプロの司書さんに知恵を借ります。何かに興味をもったときや調べものをするとき「本」がどんな役割をもつのか、どんな「本」の選び方をすればよいのか、謎ときを楽しみながら、いつのまにか学べますので、大学生や社会人の方にもきっと役立つ1冊となるでしょう。</p>

<p>千葉ニュータウン店</p>		<p>映画になった 戦慄の実話100</p>	<p>4号まで出ていたシリーズを1冊にまとめたお買い得版です。似たような本はあれどマニアも納得の大ボリューム、後は勇気を振り絞ってレジに行くだけです！</p>
<p>大垣店</p>		<p>トヨトミの野望</p>	<p>某大企業をモデルに書かれていると思われる経済小説です。創業家とサラリーマン社長とのやりとりなどの企業の内側や自動車産業を取り巻く歴史なども興味深いです。</p>
<p>草津店</p>		<p>墨龍賦</p>	<p>葉室麟の作品は人間の生きざまをテーマとしたものが多いのですが、この作品も、現在、武人の魂を持った絵師と評される海北友松の、少年期から大阪冬の陣の年に没するまでの生きざまが描かれています。</p>
<p>奈良駅店</p>		<p>比ぶ者なき</p>	<p>時は七世紀末。藤原鎌足の子、不比等。万世一系、天孫降臨、聖徳太子、すべてこの男が作り出した。古代史に隠された闇を抉り出す歴史小説。</p>

<p>大和郡山店</p>		<p>本を守ろうとする猫の話</p>	<p>祖父が営む夏木書店の林太郎が不思議な猫と共に本の迷宮に挑む。トラネコと一緒に本の世界を救うものとして冒険へ出るファンタジー。本を大切に扱う気持ちを少しでも感じ取れば。</p>
<p>檀原店</p>		<p>お手がみください</p>	<p>小学生の“真子”とひいおばあちゃんの“かず”のなんでもない日常の物語。かずばあちゃんの大らかで、動かない言葉のひとつひとつが気持ちよく、読後がさわやかです。真子の授業参観にかずばあちゃんがやってくるシーンは痛快！！何でもないのでなぜか泣けてくる、そんな物語です。“おばあちゃんっ子”におすすめしたい作品。</p>
<p>檀原店</p>		<p>ハリネズミ乙女、はじめての恋</p>	<p>芸能一家である家を飛び出して上京したコノカ。ただドジで世間知らずなので、東京のスピードに馴染めず、自分を嫌いになります。そんな中、ふらりと入ったペットショップで見かけたハリネズミのハリ君と出会う…のですが、なんとこのハリ君、関西弁で喋ります！！ハリ君と仲良くなり、仕事も順調にこなせるようになった時、ある事件が…。果たしてコノカはどんなふう成長していくのか。トゲトゲした心が丸くなるような、優しい物語です。後半は涙なしには読めません。傷つくのが怖いと感じている方に、是非。</p>
<p>心斎橋店</p>		<p>オクテ男子のための恋愛ゼミナール</p>	<p>よくあるモテ本にかかれた攻めの姿勢に馴染めない、オクテ男子のための本。そもそもどうしたら女性と出会えるのか、服装は、話す内容は等、基本の基本で迷ってしまう男の人にいい内容になっています。女の私が読んでても、なるほど確かにと思える箇所も。</p>

<p>阿倍野店</p>		<p>なぜ闘う男は 少年が好きなのか</p>	<p>イラストの絵が綺麗で手に取りやすい装丁ですが、中身はしっかりとした男色の歴史の書籍です。有名な歴史の人物の意外な一面が見えると思います。</p>
<p>豊岡店</p>		<p>冬の日誌</p>	<p>年を取ってくると、過去は美しくなるどころか、後悔や反省や恥の山積みで、ため息と自戒の日々です。この本は幼少期から現在までの身体に起こった歴史を振り返りながら、過去を見つめなおすオースターの回顧本ともいえる本です。ほぼ同時期に出版された「内面からの報告書」は精神面から過去を捉えた一冊で、二冊で正にひとまとまりとなっているようです。どれほど苦くともやはり過去とは振り返らずにはいられなく、それは意外にも優しいものかもしれません。</p>
<p>北神戸店</p>		<p>半島へ</p>	<p>北朝鮮の指導部が内部崩壊、暴発した軍部が天然痘ウイルスをミサイルに積んでばらまこうとしているのを、自衛隊の精鋭部隊が阻止する話。作戦中の自衛隊部隊の様子が、とてもリアルに描かれている。著者が元自衛官だけのことはある。</p>
<p>北神戸店</p>		<p>横浜駅SF</p>	<p>構造遺伝界という自己増殖機能をもった横浜駅に大半が侵食された日本が舞台。エキナカに暮らす人々は脳内にスイカを埋め込まれ管理されている。駅の外に暮らす主人公が、ひよんなことから手に入れた青春18きっぷで、5日間だけ横浜駅の中に入って冒険するストーリー。ナノテクノロジーとAIが暴走すると、こんな感じかなと思わせる。「銃夢」のくず鉄町とザレムのイメージで読んでいたが、著者は「アド・バード」に影響を受けたと言っている。この世界観。ハマる人はハマる。そして続編が読みたくなる。</p>

<p>北町店</p>		<p>本を守ろうとする猫の話</p>	<p>神様のカルテ作者の最新作！！本が好きな人に読んでほしい1冊です。</p>
<p>学園都市店</p>		<p>おばちゃんたちのいるところ</p>	<p>怪談でおなじみの幽霊たちが、あなたのピンチに駆けつけます…。番町皿屋敷のお菊さんや四谷怪談のお岩さん、落語や歌舞伎の登場人物が出てくる17の愉快な連作短編集。「胸の中のもやもやが成仏して、体が軽くなる。」元気が無い時には、面白い本を読むのが一番！パワフルな女性たちと一緒に物語を追ううちにきっと元気が出てくるはず。是非一度手に取ってみてください。</p>
<p>新長田店</p>		<p>素敵な日本人</p>	<p>短編集なので読みやすいです。最近の暑くて寝苦しい夜に、電車での通勤中に、普段は小説を読まない方など、それぞれの話ごとに読めるので、構えずに読んでいただきたいです。個人的には「10年目のバレンタインデー」がよかったですね。</p>
<p>西神中央店</p>		<p>半島へ</p>	<p>元幹部自衛官の著者による、超リアル軍事サスペンス！今、世間を騒がせている北朝鮮が舞台。</p>

<p>須磨パティオ店</p>		<p>終わった人</p>	<p>60代という若さで定年を迎える男の「その後」…。いつかは必ずやってくる定年後をテーマに、会社人間だった男が新しい生き方を求めて試行錯誤する様子を描いた長編小説。</p>
<p>明石駅ビル店</p>		<p>リリース</p>	<p>同性愛者がマジョリティとなった世界——。女好き(異性愛者)のエンダ×ボナの反逆の物語が今、始まる!!三島由紀夫賞にもノミネート、2017年1番アツイ小説はコレだ!!</p>
<p>倉敷店</p>		<p>ズボラーさんの たのしい朝ごはん</p>	<p>紹介されているレシピはどれも本当に簡単なものばかりで、インスタジェニックなレシピが豊富に掲載されていたり、読み応えのあるコラムもたくさん入っていたりと、読んでいるだけでも楽しい気分になれます。朝ごはんだけではなく、お昼のお弁当やお子さんのお子さんのおやつなどにもオススメです。</p>
<p>小倉店</p>		<p>また、桜の国で</p>	<p>日本とロシアをルーツを持つ外務書記生の棚倉慎は着任先のポーランドでかけがえのない仲間を得る。戦時中のポーランドを駆け抜けた若者たちの物語。読みながらいろいろな感動と感情が溢れてきました。ぜひ読んでほしい魂の1冊です。</p>

小倉南店



薔薇色じゃない

出会い、別れ、再会、と時間の流れとともに二人の登場人物の視点が交互に入れ替わりながら話が進む点がとても面白かったです。最後の死の瞬間まで描かれていて、薔薇色ではないけれど本当に幸福そうな二人の一生に、作者の風良先生らしい優しさがあって、思わず涙ぐんでしまいます。とても幸せな気持ちにさせてくれる一冊です。



©えび

**次月は理工PC担当者の  
オススメ本を紹介予定！  
お楽しみに！！**